

令和2年度事業報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、FAJのコミュニティ運営にも多大な影響を及ぼしました。これまで対面が当たり前だった活動の大部分は、双方向型オンラインコミュニケーション(以下、オンライン)に変わり、一部実施できた対面の活動も感染対策を講じての実施となりました。

各事業では、今までの知見を基に全国の会員が対面やオンラインの活動を工夫しながら継続し、新たなファシリテーションの可能性の創造にもつながりました。コロナ禍により社会が形を変えていく中で、私たちFAJの存在意義や私たちファシリテーターは何ができるのかを問われた一年となりました。

調査・研究事業: 定例会、例会等において、これまでの知見をオンライン上で展開し、地理的・時間的制約を超えて探究の場を広げました。引き続き、FAJ内外のファシリテーターとの研鑽の場づくりを行いました。

教育・普及事業: コロナ禍によって、従来の対面型公開セミナー開催が困難な状況のなか、安心・安全に配慮したセミナーの開発・実施に取り組みました。

支援・助言事業: 支援を必要とする現場に赴き、対面で実施していた支援がコロナ禍で困難になりました。そうした状況のなかでもオンラインを活用した支援を実施しました。

交流・親睦事業: コロナ禍においても、地域イベントのオンライン開催、在住外国人の支援、海外のファシリテーションの知見提供等を通じて、国内各地域や国境・文化を越えた交流を深めました。

広報・コミュニケーション活動: 外部への発信強化に着手し、将来の会員や支援先、協働パートナーを見据えた広報を展開しました。また、会員相互の知見や実践事例の共有を通じて内部コミュニケーションの充実を図りました。

ミッションおよび組織運営に関わる活動: オンラインでのコミュニケーションを促進するため対話と議論を重ねながら、持続可能な組織運営を考えることで、あり方とやり方を検討しました。

以下、事業計画に沿って、事業の概要を報告します(括弧内は担当組織を表します)。

1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

1) 実践力の相互研鑽の場づくりの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- 各支部・サロンでの活動がオンライン中心となり、地理的な制約を越えて参加者が集いました。定例会・例会は、これまでの知見を活かして開催され、地域を越えた企画が数多く生まれました。一方、対面での開催を模索し実施しました。
- プロジェクト活動・サロンの新規設立はありませんでした。
- 全国イベント「ファシリテーションサミット」を計画しましたが、コロナ禍で延期しました。

2) ファシリテーションの本質を研究(理事会、イベント実行委員会)

- ザ・ワールド・カフェをテーマとした「The World Cafe25周年イベント」(以下、TWC25)を、オンラインで実施しました。FAJの枠を越えて広く募った個人・団体が、立場・環境・地域・国境など、さまざまな壁を乗り越えるための対話の場を20回以上開催しました。

2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- コロナ禍でも開催可能なプログラム(ファシリテーション基礎講座 コロナ感染症対策版)の開発や運営マニュアルの整備を行い、7月以降、6会場9クラス開催しました。またアフターミーティングを2回開催しました。

2) 公開セミナーの新たな展開の検討(理事会、公開セミナー委員会)

- ファシリテーション実践講座(仮)のコンテンツを完成させ、担当講師についても選定を終え、コロナ収束後いつでも事業化できる状態にしました。
- コロナ禍で特にニーズが強まったファシリテーション基礎講座(オンライン版)の開発を行い、パイロットを1回実施して事業化の準備を進めました。

3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- 今年度は外部からの問い合わせは34件、支援の実施数は10件に留まりました。オンラインツールを活用したりモット形式で実施した事例もできました。案件毎にニーズに合ったチームを作り、支援にあたりました。
- 注力を検討していた教育分野では、3件支援を行いました。過去の知見を整理するには至らなかったものの、支援リソースを充実させつつ、学生・生徒向けの授業のみならず教職員向けにもファシリテーション研修を行いました。

2) 災害復興・防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 前年度から継続した案件と、今年度被災した福岡県の情報共有会議などをオンラインで支援しました。
- 防災では内閣府人材育成事業での支援、各所からの依頼に応えオンライン記録支援についての学びの場づくりなどに取り組みました。なお、復興支援のプロセス等の調査についてはコロナ禍により実施することができませんでした。

3) 支援活動への理解の促進(ファシリテーションサポート委員会、災害復興委員会)

- ファシリテーションサポート委員会は、FAJ内で支援活動報告会を実施しました。FAJ外への発信については課題として残りました。
- 災害復興委員会は、FAJ内で災害復興についての対話会を実施しました。FAJ内外に向けて支援活動を報告書やSNSで発信しました。

4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

1) 地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)

- 北海道支部及び中部支部において地域イベントをオンラインで開催し、FAJ内外の交流を促進できました。支部によっては、コロナ禍の影響によりイベント開催を見送りました。

2) 国境や文化・言語を越えてつなげる活動強化(グローバルファシリテーション推進委員会)

- IAFストックホルム大会が中止となり会員派遣はできませんでしたが、オンラインによる海外ファシリテーターとの交流を行いました。
- 多文化共生をテーマに在住外国人支援のための活動を行いました。また、各支部と協力して、海外のファシリテーションの知見を提供しました。

3) 他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会)

- 前述のTWC25イベントをIAFと共催し、相互の交流を深めました。また、ワールド・カフェ主催支援などを通し、他のNPO等と協働しました。
- 外部団体のイベントに、運営面やファシリテーターの役割として協力するなどの取り組みを行いました。

5 広報・コミュニケーション活動

1) 広報戦略の立案と発信の強化(理事会、広報委員会)

- FAJ公式ホームページのアクセス解析の結果、使いやすさを検討し、ページ構成の改良及び継続的なメンテナンスを開始しました。
- 対外的な発信を強化するための手段を検討し、新規加入促進に向けたホームページの見直しや、新しいパンフレットの作成に着手しました。

2) FAJ活動を内外に発信する広報活動の実施(広報委員会)

- ニュースレターを3回発行し、会員相互で知見を共有することで積極的な活動を促しました。また、ブログ記事を積極的に更新しました。
- コロナ禍で活動の制約がある中、オンラインでのイベントや場づくりへの取り組みをスピード感を持ってFAJ内外に発信・紹介しました。
- 災害復興支援の取り組みをはじめ、FAJ 内外で社会課題に取り組むファシリテーターに関するトピックを取り上げ、ニュースレター等で、それぞれの現場での実践事例を紹介しました。

6 ミッションおよび組織運営に関わる活動

1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)

組織がおかれている現状を話し合い、ビジョン3.0を確認し、新たなビジョンの策定に向けて検討を開始しました。外部に向けた活動はできませんでしたが、FAJ内部での協働と共創を促進する仕組みについての案を作成しました。

- コロナ禍に活動を継続するために、想定される感染リスク対策を組織として講じました。
- 持続可能な組織運営のために、運営の実態に関するヒアリングを実施し、外注可能な事務局機能について検討し明確にしました。新たな資金調達に関する検討は進みませんでした。
- 各拠点間及び理事会のコミュニケーションを円滑にし、各拠点の運営をよりよくするための組織コミュニケーションの場として「しゃべり場」を新設し、概ね月1回開催しました。
- オンライン上のコミュニケーション活性化のため、会員限定の交流サイトを試行導入し、検証を始めました。

2) 拠点運営のサポートの充実(システム管理委員会)

- FAJ公式ホームページへのアクセスを維持するために、設置環境バージョンアップに伴う対応を実施しました。
- G-suite運用管理、Webサイト問合せ対応など通して拠点運営のサポートを実施しました。
- オンラインTV会議システムの運用および利用状況を鑑みたアカウント削減を実施しました。

3) 各種制度改正への対応(理事会、事務局)

- 制度改正への対応はありませんでした。